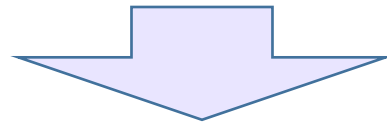


富山県関係人口調査について

総合計画の基本理念

「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山～」

- ・ ウェルビーイングの向上により人材交流の活性化、人材の集積を図り、「関係人口1000万人」を目指す。



○全国アンケート調査を実施し、関係人口を推計(R7.12)

実施方法:WEBモニターアンケート調査
対象者 :18歳以上の富山県を除く全国46都道府県の居住者
回答件数:46,000件(R7.12.9~12.22)

※前回調査(令和4年)から3年ぶりに実施

富山県の関係人口の定義

①県外に在住し、②「本県と関わる(行動する)」者のうち、③「強い関係性」をもつ者。(1)～(3)のいずれにも当てはまること

(1) 県外在住者

(2) 本県と何らかの関わりを有している者(具体的な分類は次ページ)

(3) 直近1年間に1回以上の関係を有する者 及び 本県と地縁を有する者

富山県の関係人口の分類

	関係人口の分類	主な例
訪問系	地域の課題解決・活性化の取組みに関わる者	地域課題解決プロジェクト、地域資源の活用を考えるワークショップ、ボランティア活動、災害支援 など
	二地域居住者	副業・兼業、テレワーク、ワーケーション、前述の状況にあるパートナーへの同伴など
	県内イベント等参加者	マラソン、サイクリング、農泊、グルメフェス、祭り など
	県産品購入者(訪問)	農林水産物(米、酒等)、工芸品(高岡銅器、ガラス製品等)、その他富山県企業の商品・製品 など
非訪問系	県内自治体を応援する支援者	ふるさと納税、寄付、富山県人会への加入、ファンクラブ等への加入、自治体情報の発信(インフルエンサー活動) など
	県外イベント等参加者	観光物産展、セミナー、アンテナショップ(東京、大阪)でのフェア、富山県内で開催されるセミナーへのオンライン参加 など
	県産品購入者(非訪問)	農林水産物(米、酒等)、工芸品(高岡銅器、ガラス製品等)、その他富山県企業の商品・製品等 など
	SNS等での情報取得	SNS(LINE、X(旧Twitter)、Instagram等)でフォローしている富山県内の自治体のアカウントから情報取得を行った方
地縁	富山県にゆかりがある者	富山県に居住されたり、通学・通勤されたことがある方

↑
関係が深い

↓
関係が浅い

富山県関係人口調査の結果について

R4 関係人口調査

351
万人

R7 関係人口調査

7 2 3

万人

7,229,470人

(令和7年12月調査、令和8年3月推計)



前回調査(令和4年12月)との推計値比較

関係人口の分類	令和4年度調査 推計値(人)	令和7年度調査 推計値(人)	増加率
地域の課題解決・活性化の取組みに関わる者	240,688	1,490,691	619%
二地域居住者	51,124	137,833	270%
県内イベント等参加者	66,221	432,151	653%
県産品購入者(訪問)	1,031,343	2,222,530	215%
県内自治体を応援する支援者	341,128	675,201	198%
県外イベント等参加者	336,010	413,334	123%
県産品購入者(非訪問)	925,665	1,323,338	143%
SNS等での情報取得	55,852	137,715	247%
富山県にゆかりがある者	465,951	396,677	85%
合計	3,513,982	7,229,470	206%

関係人口の主な増加要因

- ① 令和4年成長戦略策定後、ウェルビーイング向上、関係人口の創出・拡大を目指してきた施策の効果
- ② 令和6年の能登半島地震をきっかけにボランティアなどで関わってくださる人が増えたこと
- ③ 令和4年調査時は、新型コロナ禍で活動を控えていた人が、活動を再開されたこと

関係人口の分析 ～ 関係の深化へ ～

(地域課題の解決・活性化の取組みに関わる者)

関係深化の促進要因



関わりを後押しする要因

- ・ 自身または親族・友人・知人が富山県にゆかりがある
- ・ 富山県の豊かな自然・食・伝統工芸・人柄等が魅力的である
- ・ 関係人口自身に貢献意欲がある
- ・ 関係人口自身に災害復興を支援したいという思いがある

継続を後押しする要因

- ・ 自分の成長・学びにつながった
- ・ 人の役に立てていると感じた
- ・ 地域とのつながりができた
- ・ 地域の魅力・良さを実感した
- ・ 地域の活性化・復興を実感した
- ・ 個人的なメリット(収入・評価など)がある



関係のステージ

関心あり

1つめの壁

ライトな関与

2つめの壁

深く継続的な関与

関係深化の足踏み要因



最初の壁

- ・ 取組みの始め方が分からない
- ・ 地域に対する理解が不足している
- ・ 人脈がない・協力者がいない
- ・ 地域が受け入れてくれるのか不安である・人間関係が不安である
- ・ 自信がない・踏み出す勇気がない

共通の壁

- ・ 情報が不足している

- ・ 取組みの進め方が分からない
- ・ 人間関係・コミュニケーションが難しい
- ・ 人手不足である
- ・ 文化・慣習の違いがある
- ・ 環境・気候が厳しい
- ・ 体力・労力の負担が大きい
- ・ 仕事との両立が難しい

継続的な関与に向けた壁

- ・ 費用負担が大きい
- ・ 交通手段・移動時間・距離の問題がある



関係人口の分析 ～ 関係の深化へ ～

(二地域居住者)

関係深化の促進要因

共通の後押し要因

- ・ 自然・食べ物等の地域資源が魅力的である
- ・ 暮らしやすい

関わりを後押しする要因

- ・ 親族・友人・知人が富山県にいる
- ・ 親族・友人・知人から紹介を受けた
- ・ 理想のライフスタイルを実現したいという思いがある
- ・ 地域活動等への参加がきっかけである

継続を後押しする要因

- ・ 人が温かい
- ・ 心身のリフレッシュや健康促進につながる
- ・ 子育て環境がよい
- ・ 老後の生活が充実する
- ・ 地域との関わりができる・地域理解が深まる



関係のステージ

関心あり

1つめの壁

二地域居住の開始

2つめの壁

継続的な二地域居住

関係深化の足踏み要因

最初の壁

- ・ 住居の確保が難しい
- ・ 土地勘がない・情報が不足している
- ・ 家族をはじめとする周囲の理解が得られない
- ・ 仕事の調整がつかない

共通の壁

- ・ 情報が不足している

- ・ 費用負担が大きい
- ・ 交通手段・移動時間・距離の問題がある

継続的な居住に向けた壁

- ・ 生活環境への適応が大変である
- ・ コミュニティへの参加・人間関係が難しい
- ・ 体力的な負担がある
- ・ 仕事との両立や滞在日数の確保が難しい



総務省 ふるさと住民登録制度モデル事業に採択！



○ふるさと住民登録制度の本格運用に先立ち、①全国自治体の取組の参考となる事例の創出と②アプリを活用した取組みの検討・実証を目的とした総務省のモデル事業に

富山県※が採択されました

※3月27日、全国で28自治体

(都道府県7、市町村21)が採択

(富山県は高岡市、魚津市と同時採択)

